平成三年五月一日発行（毎月一日発行）三三一号　発行／黒埼町役場　〒九五〇-二一　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三-一　電話／〇二五-三七七-三一〇一　編集／企画商工課（担当・広報統計係）　印刷／㈱第一印刷所　経費一部四三円

人 81

五月に作品展を開く

坂井国作（さかいくにさく）さん
栄町・八十歳

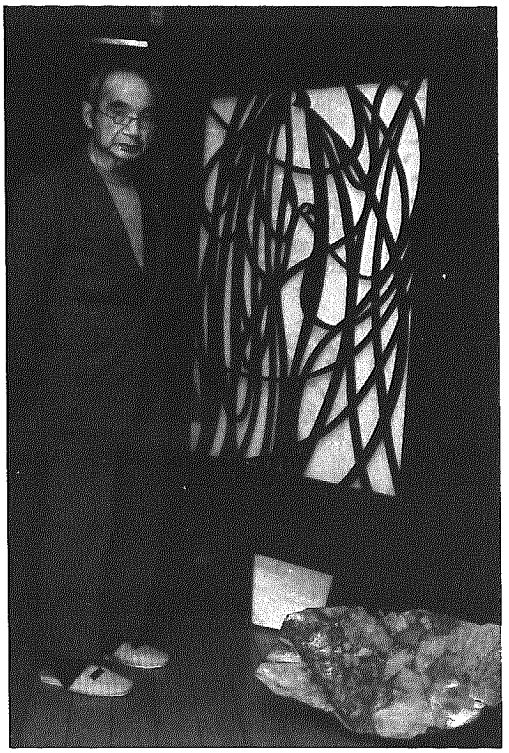
「もの」を作ることには何かしら満足感があるものだ。芸術にしろ、何にしろ、成果だけでなくそれまでの過程を楽しめるかどうかが長続きと上達の秘訣とある人がいっていた。

坂井国作さんは幼いころからものを作ることが好きだったという。そこで父親の理解もあって、家業を継がずに木工を職としてきた。最初は車屋、それから家具・建具。二十代後半の昭和十年ころからは刀の鞘を作り始める。刀の鞘では展覧会などへも出品し、何度か賞も受けた。昭和十九年には軍属となり、横須賀の海軍工廠で特攻隊の刀の鞘を作っていたという。「B29が頭の上を飛んでいるのを見て、戦力の差を感じた。それで、仕事に精を出さないことはないけど、寂しい気持だったね」と当時のことを坂井さんは振り返る。

戦後は、昭和二十二年ころから木工工芸を志し、二十五年に「清砂」と題した箱を日展に出し、入選した。そのころは、タバコ入れのジンギリや物を入れる桐箱などを職業として作っていた。「展覧会に出すような作品を作ったってマンマ食えないからね」。

日展にはその後も作品を出し続けたが、残念ながら入選はしなかったとか。

坂井さんは去年、満八十歳を迎えた。「今でもカンナは研げるが、手が痛くなってね。前に一〇〇号ばかりの絵を描き終えたら腰が痛くなったことがあった。レントゲン撮ってもらったら、骨も色が変わっていると言われたよ」というわけで、今は主に絵を描いている。油絵は昭和四十二年九月から町の絵画クラブに所属して習っていた。



坂井さん。うしろのついたてが「邂逅」である。こうした作品では「清音」（すがね、と読む）という号を使う。

こうして坂井さんが戦後に制作した工芸や絵画作品を、広く町民の皆さんに見ていただくため、北部地区公民館で作品展が、この五月十日から十二日まで開かれる。展示されるのは、油絵約二十点、工芸十点、日本画七、八点に、国作さんのお子さんで県展入選作家（写真で）の坂井俊文さんの写真十点ほどだ。

日展に応募したが入選しなかった作品に「邂逅（かいこう）」と題する、人の背丈ほどの高さのついたてがある。ケヤキの板を彫ったもので、昭和二十年代の作品だ。「月で男と女が出会う場面」ということだが、とてもモダンな感じがする。これも作品展に展示されるそうなのでぜひ見てほしい。

「これからは裸婦や風景、抽象画を描いていきたい」と抱負を語る坂井さん、ずっと元気で、斬新な作品を作り続けてください。

坂井国作・俊文 作品展

とき・5月10日(金)～12日(日)
ところ・北部地区公民館

ほんの一冊

なにが男の料理だ！
田川律・著
（晶文社）

「男の料理」というものがはやっているようです。道具を選び、材料に金をかけ、時間をかけて作る……そして、後片付けなんてしらないよ、というやつですね。しかし、この本の著者は料理なんてありあわせの材料で、LP（この言葉も死語になりつつあるな）片面でできるくらいでなくちゃ、と言います。日々生きていくために必要な、ごく日常的なことなんだから、というわけです。そんなだれにでもできる（はずの）料理の作り方が巻末にありますから、ぜひのぞいてみてください。

編集室

先日、町内で火事があり、家が三軒焼けた。その現場を見たのだが、ふだんは頑丈に見える家があんなに燃えやすいものだったとは、と思うくらい、よく燃えるのですね。あらためて火事のこわさを実感、火の取り扱いには気をつけなくては、と思った。▼火事にヤジウマはつきものとはいうものの、やはり消火の邪魔になるし、危険でもある。これも気をつけたい。

●今月の表紙

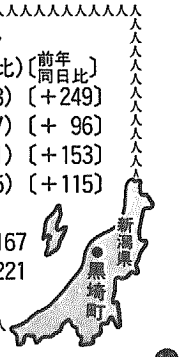
「使いごこちはいかが？」と聞いておきながら、また昨年十月号で「施設の使い具合を知っておくのも広報担当には必要だ」などと書いていながら、実は新しい老人福祉センターのふろにまだ入ったことがないのです。

◎来月号の表紙

実は何も考えていません。連休が終わったら考え……それでは遅すぎかなあ。こういったことを取り上げては、という意見などがありましたら役場企画商工課広報係
☎377―3101内線336までお寄せください。

〈人の動き〉

3月末日現在		（前月比）	〔前年同日比〕
人口	23,567	（−48）	〔+249〕
男	11,538	（−37）	〔+ 96〕
女	12,029	（−11）	〔+153〕
世帯	6,337	（− 5）	〔+115〕

3月1日～末日

出生	12	転入	167
婚姻	15	転出	221
死亡	8